慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	人物発生に対する自然界の勢力
Sub Title	
Author	田中, 一貞
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.5 (1909. 6) ,p.559(17)- 573(31)
JaLC DOI	10.14991/001.19090601-0017
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090601-0017

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(十 Ranke's Sämmtliche Werke, B 38. S. 324. Pages, p.p.p. 129
(十一)「リース」博士「葡萄牙人の日本より追放せられし原因」(史學雜誌第十一篇頁七—八)
(十二)Pages, p. p. 308.

(完結)

人物發生に對する自然界の勢力

田中一貞

自然界の勢力が國家の興亡社會の盛衰に少からざる關係を有するは何人も否定する能はざる所なりと雖、世には往々此勢力を過重視し社會の發達を以て動植物の進化に比し、其變化は其之を形成する個人の勢力に依らずして漫然、外界の他動的勢力にのみ依るものなるかの如く考ふるものなきにあらず。此の如き誤謬は人々を不知不識の間に宿命說に傾かしめ其奮鬪力を減殺し、社會國民の元氣を消耗せしむること甚だ大ならざるを得ず。思ふに社會なるものは元來個人と云へる意識的存在によりて形成せられ隨て其社會的關係なるものは其精神の結合によりて決せらるゝものなれば個人の努力或は其努力の蓄積は能く社會の進步及其方向を左右し得べきものなるや疑なし。外界の勢力中最も多く社會に關係あるものゝ中には吾人の力を以て殆んど左右すべからざるものあり、例へば人種の良否地勢の利不利の如きは人力を以て一朝一夕に變更すべからざるものなれど

も、深く是等のものを考察するに實際吾人の一般に想像するが如く社會に對して勢力あるものにあらず。凡そ一社會一國民の能力の總量は何れの地に於ても差して變化なきものにして唯其異なるは知識の總量のみ。能力は自然的先天的のものなれども知識は天然の事狀に基く所甚少く寧ろ人爲的社會的境遇によりて定まるものなり。結局人は其智力と知識を以て外界に打勝たんと奮鬪しつゝあるものにして隨て社會の積極的能動要素は其之を構成する人物に存し、外界は寧ろ之に對して種々の障礙を提供しつゝあるなり。即外界なるものは人間の能動的勢力に對する受動的勢力に過ぎざるが故に人は其努力に依り外界の障礙を除去し或は之を變更し之を利用して以て社會の幸福を助くるの具となし、此の如くして漸く文明の域に進み自然的外界の上に更に人爲的の外界を作るに至る。故に社會の進歩は其主勢力たる人間の活動が外界の受動的勢力に衝突して其勢力の平均を得たる點に靜止するものにしてワード氏の所謂合成力(Synergy)に依りて定まるものと云ふ事を得べし。(Ward; pur esociology, P.P. 171-184) 去れば一國民一社會が其事情の如何に係はらず突然其精華とも云ふべき俊才を失ふことありとせば

其結果は如何に落寞たるものにして、其衰頽の如何に速なるべき。西班牙が其慘忍なる宗教裁判に依り其人才を殺戮し或は之を國外に放逐したる結果は一國忽ち虛脫の症に罹り、其一度失ひたる元氣は之を恢復するの機なく、此時期の前後を比ぶれば其盛衰汚隆の差の著るしき實に『國破れて山河あり』の感なきを得ず。之を漫然時勢の然らしむる所なりとするは淺薄の見と云ふべし。而して他の一方に於て瑞西國は科學界に於て其貢獻する所甚多く、其功績の顯著なるものありしは他の歐洲諸國に於て迫害を受けたる偉材が多く此國に流れ來れるが爲なり。是に於て人物の力の如何に偉大なるかを知るべし。

然らば此社會進歩の原動力とも云ふべき眞正の意義に於ける人物なるものは果して如何なる事情の下に生れたるものなるか。換言すれば社會の發展に直接の貢献をなすものは人物其者を措て他に求むべからずと雖も其人物をして人物たらしむるものは何ぞや。議論泝りて此處に到れば吾人は始めて外界の勢力を說かざるを得ず。此人物發生に關係ある外界の勢力に關して研究したる學者其數少からずと雖も瑞西の學者ド、カンドール氏(Alphonse de Candolle; Histoire des sciences et

des savants depuis deux siècles) の如く廣く之を蒐集したるもの尠からん。彼が千八百九十年米國のソード氏に與へたる書翰には『我研究に依れば Nurture は Nature より も重要なり』とて人物の發生には遺傳地理氣候等の自然的勢力よりも風俗習慣教育其他の社會的勢力の偉大なることを諷せり。彼は更に科學者の發生に有利なる條件となりとて左記の如き二十ケ條を擧げたるが其中遺傳に關するものと氣候に關するものとの二ケ條を除きては悉く人爲的社會的の條件のみなるは大に注目すべき點なりとす。

一、勞働階級に比して富有若くは安易なる身分に屬するもの割合に多き事。

二、是等富有なる階級中に自己の收入に滿足し、以て直接に金錢上の利益なき事業に從事するもの多き事。

三、數代に亙る習慣に依り思想感情が自ら眞理探究に向ふ事(遺傳の結果)。

四、學問の趣味ある良家族が外國より入り來る事。

五、科學及其他の知識を要する職業に有利なる傳說を有する家族の多き事。

六、小學教育、及殊に政黨教派等の干涉を受けず學生に科學研究の嗜好を鼓吹する良中學教育。

七、圖書館、天文臺、博物館等の科學研究の便利に富む事。

八、科學的眞理を尊重する一般の氣風。

九、少くとも科學研究に關する言論の自由。

十、科學研究幷に科學者に有利なる輿論。

十一、職業撰擇の自由、旅行の自由、自己の意思に反して人に使役せられざる自由。

十二、教權を以て人を壓することと少き宗教の信仰。

十三、僧侶が自己の率る團體及一般社會の教育に忠實なる事。

十四、僧侶が獨身主義を奉ぜざる事。

十五、教育ある階級が一般に英佛獨語の知識を有する事。

十六、小獨立國、又は小國より成る聯邦組織。

十七、溫帶又は北方に位する土地。

十八、文明國に接近する事。

十九、科學に關する學會學校の多き事。

二十、旅行、殊に外遊の習慣ある事。

ド、カンドールが此條件を擧ぐるに當りては自己の居所卽瑞西を標準としたる形蹟甚明なれども、瑞西の外にも多數の人才を生じたる國甚多きを考ふれば第十六の小獨立國又は小國より成る聯邦組織と云ふが如きは必ずしも重要なる條件に非るべし。而してワード氏は之を要略して人物發生の條件をば一、有形的(地理的)二、人種的、三、宗敎的、四、地方的、五、經濟的、六、社會的、七、敎育的、の七種となせり(Ward: Applied Sociology P. 147)余は寧ろ更に之を二種に要略し第一を自然的にして人力を以て俄に變更すべからざる條件となし是にワード氏の有形的條件人種的條件とを含ましめ第二を人間の努力により或度まで左右し得べき條件、換言すれば自然的他動的にあらずして人事的自動的條件となしワード氏の所謂宗敎的社會的敎育的記條件を之に屬せしめ總稱して社會的條件となし、此二大條件の凡づれが人物發生に最も有利にして、隨て社會の進步なるものは如何なる度迄自然界の勢力に依り、如何なる度迄吾人自身の奮鬪努力研鑽勉勵に依るかを研究するは甚だ有益の事業たるべしと信ず。

自然的條件なるものに就きオーダン氏は其著「偉人の出生」(Odin; Genèse des grands hommes)に於て興味ある研究を遂げたり。此研究は專ら佛國の各地、白耳義、アルサス、ローレン、及瑞西の佛語を使用する部分に於ける文學者の分布に關するものなり。是等の地方は吾人の知るが如く其氣候は決して均一なりと云ふべからず、地勢は山地平野海岸ありて至る處趣を異にせり。隨て若し是等の地理的條件が人物發生上重要なる條件ならんには最近數世紀間に於ける人物分布の比例は必ず或度迄其影響を受け居らざるを得ず。然るにオーダン氏の此研究は少しも此の如き徵候を示し居らざるを如何せん。彼は先づ佛國及其他の各縣(デパルトマン)が古來產出せる文學者(オーダン氏は此語を極めて廣義に解し殆んと凡ての學者を網羅せり)の數を擧げ、次に人口十萬に對する其比例を示したるが、此統計に依れば其最も多くの學者を出したるものは人口十萬に對し百九十六人の比にして最少のものは人口十萬に對し僅に一人の割なり。而して其全體を平均すれば人口十萬に對し十八人の比にして、可なり多數の學者を生じたるもの五十七縣ある中に其學者出生數の比例が此平均數十八人と大差あるもの十三縣に過ぎず。其割合の

最も大なるは瑞西のゼネヴァにして百九十六人の割、次はセーヌ縣にして百廿三人の割なり。但しゼネヴァは宗教上の迫害を受けたる志士の避難所たりし地にして其學者に富めるは寧ろ社會的條件に依るものと云ふべく、又セーヌ縣は巴里と云へる大都會の所在地なるを忘るべからず。或はゼネヴァに學者の多きは其山地なるに依ると主張する人もあるべしと雖も巴里の如き平地に此の如く多數の學者を出せるを見れば原因は其地勢に非るを見るべし。セーヌ縣の次は馬耳塞を首都とするブーシュジュ、ローン縣なるが巴里との差は甚だ著るしく十萬人中四十三人の割に過ぎず。此四十三人と全體の平均數なる十八人との間にはジョン、アヴイニヨン、オルレアン、メッツ、ブザンソン、トロア、ツウルース、ショーモン、ルーアン、ニーム、ボーベーを首都とする諸縣あれども是等は或は内地或は海岸に散在して如何にしても其共通の地理的特徴を發見し難し。オーダン氏は更に一個の地圖を製し各縣産出學者の割合を十萬人に付四人以下、五人以上八人迄、九人以上十二人迄、十二人半以上十九人迄、二十人以上四十二人迄、四十三人以上と六級に分ち各縣を色の濃淡に依りて區別したり。余は親しく此圖を見たれども如何

にしても純然たる地理の感化なるものを發見する事能はず。瑞西ヴァロア州（カントン）の如き山地は一人の有名なる學者を出さゞるに同じく山地たるヴォード州の如きは人口十萬に付二十二人の學者を生じ、又ヌウシアテルは同じく十八人を出しアルサスローレンの一部は二十九人を出せり。ビレニー山下のアリエージ及ホートビレネーもビスケー灣頭のランドも英吉利海峽に臨めるコート、ジュ、ノールも、將た佛國の中心に接近せるクリユースも皆人口十萬に對し三人以上の學者を生じたるものなし。其他の平均數より遙に下れる諸縣と雖も或は西海岸或は東方國境或は内地に在りて如何にしても地勢上の共通點を發見するを得ず。

オーダン氏は更に佛國領内及上記の諸地方の九十八縣を改めて二十四州（フロヴァンス）に分ち人口百萬に對する學者の數を取調べたるに矢張り諸縣の統計と同じく地勢と學者の出生との關係に就ては少しも得る所なく、彼は更に之を北部、東北部、東南部、西南部、西北部北中部の七大部に分ちて人口十萬に對する學者の比例を見たるに左の如き結果を得たり。

（オーダン氏は學者を Merit, Talent, Genius の三階級に分ちたるを余は假に秀才、英才、天才となせり）

	秀才	英才	天才
北中部	四八三	九九	一二九
東北部	一八五	三二	四、三
東南部	一四三	二六	三、五
北部	一二〇	二〇	二、八
南中部	一一五	二二	一、一
西北部	九二	一六	二、五
西南部	八九	一六	二、二

此表に依れば南中部を除きては英才天才の順序は秀才の順序と等しく、其北中部の比例の大なるは巴里を含むが爲なり。其次は東北部東南部にして共に佛國の東方に位し、一はアルプスに近く一は地中海に臨める地なるが故に、此山脈と此海岸は人物發生に有利なりとする人もあるべしと雖も、然らば何故に大西洋及英吉利海峽に沿へる地方は然かく人物を生ずること少きや。セーヌ河の平野には此

の如く學者の輩出せるに何故にロイル河ガローン河の沃野には英才秀才を生ぜざるが。此の如く觀察し來れば人物產出の多少は單に地勢地形等の自然的條件に依る事吾人の想像する如く偉大なるものにあらざるを知るべし。オーダン氏自らも此調査の結果下の如き結論をなせり『是に依りて地理的境遇の勢力は絕無なり又た單に微少なりと斷定するは當を得たるものにあらず、實際地勢の力は必ず微弱なるものにあらざるべし。然れども此力は特殊の場合の外は一般に甚優勢なるものにあらずと斷言する事を得。何故にドウブ縣には多數の文學者を生じてジユラベルノアには唯一人の文學者を生じたるが。是は所謂地理的理由なるものに依らざるは明瞭なる事實なれば此種の差異の眞因をば更に他方に求めざるべからず』と。然らば人物發生の原因となるべき他の條件は何ぞや。自然的の條件としては猶人種的勢力の問題あり、更に社會的の諸勢力の存在するあり、余をして次に殘りの自然的條件たる人種的勢力の問題を論ぜしめよ。

異なる人種間に於て知識の程度に差異あるは否定すべからざる事實なれども、其差異は果して人種的遺傳より來れるものなるか、將た其人種の社會的境遇が偶〻

此の如き差異を生じたるものなるか。人種も明に其皮膚色を異にするもの〻間には其天然の才力に於て差等あるべしと雖も、同色の人種中に於て或地方には多くの人才を出し、或他の地方には比較的に少數の人物を出すことあるは人種的原因によるものなるや否やは一般の疑問なり。此點に關してもオーダン氏の議論は大に首肯すべきものあり。佛國各地の人種は今日大抵混淆せられ佛國人は凡べて一人種と見做すことを得べしと雖も、嘗ては種々の人種によりて占有せられたる國なれば若し人種に依り人才を生ずる事多少ありとすればオーダン氏の統計の如きも幾分か影響を受くべき筈なり。而して佛國は嘗て五個の重なる人種に依りて占有せられ、ゴール人は其中部を占め巴里より少しく北に當る地を頂點としヴアランス、モントーバンを東西に連結する横線を底としたる三角形の地方を領有し、シムブリヤ人は其西北部、イベリヤ人は其西南部、リギユリア人は其東南部、ベルギー人は其東北部を占領したり。オーダン氏は地圖に就て果して是等諸人種の占有地域と學者產出の多少と關係あるや否やを精査し遂に下の如き失望の言を發せり『佛國文學者の地現的分布と其人種的區分とを比較するも吾人は人種と文學者產出の多寡との間に些少の關係をも發見すること能はず。縣州又は他の地方的部分は何づれの地圖に依るも文學者の分布と大なる差異あるを知る……但し之を以て直に人種的勢力を否定すべきにあらず。何となれば是は全く人種の分布に關する吾人の無學に依るやも知るべからざればなり。』

更に世には上流社會と下層社會とは殆んど人種的とも云ふべき能力上の差異あるが如く信ずるものありと雖も、其實は能力に相違あるにあらずして社會的境遇によりて大なる懸隔を生じたるのみ。我邦封建時代に在りては士族と農工商とは品格に於ても學力に於ても別人種の如き觀ありしも今日に於ては農工商の中より夫れ〳〵學者政治家等の人才を出し士族と殆んど區別なきに至れり。是を以て見るも社會的勢力の自然的勢力に比して如何に有力なるかを知るべし。又更に一國民、同色人種内に於ては人種的差別の爲に其智力に著るしき差異を生ずるものに非ることは既にオーダン氏の調査にて略々明なるも、白色人種、黄色人種、赤色人種と云ふが如き其肉體上の差別著るしきものにありては其智力人格の點に於て先天的に著るしき懸隔ある事は殆んど萬人の信する所なる

が。是とても其實は吾人の一般に想像する如くに然かく確然たる差別の存するものにあらざるやも知るべからず。一般に人は自愛的なると同時に自己の價値を過重視するは免れざる所、隨て一國民一人種としても自家の國民、自家の人種を、神の選民とし己れと異なるものを劣等種族の如く見下すは洋の東西を問はず文明の高下を論せず比々皆然らざるはなく、西洋人は支那人を見ること豚の如く、支那人は自ら中華と稱して外人を夷狄と呼ぶ。去れば今日の白人が說く所を聞けば白人以外人なきが如くなれども古代支那亞剌比亞印度の文物其隆盛を極めたる時代に當り今の白人種の祖先は如何なる狀態にありしかを考ふれば思半ばに過ぐるものあらん。故に今日白人種の優勢なるは人種以外の原因に依るものにして顏色の白と黑と黃と赤とは其能力とは沒交涉なるやも知るべからず。殊に日本近來の發達は白人の有する人種の優劣に關する偏見に一大痛棒を加へたるが如き觀あるは吾人日本人種として痛快の感なきを得ず。

地理的條件此の如く人種的條件亦此の如くなりとすれば社會の文明を左右する所の重なる原因は人間に對し不可抗力なる自然的條件よりも寧ろ敎育宗敎政治

等凡べて寧ろ吾人の努力に依り左右することを得べき社會的條件にあることを知るべし。但し敎育と云ひ政治と云ひ宗敎と云ふも悉く個人の意志を以て一時に改革し進步せしめ得るものにあらずして凡て一地方一國民一社會一人種の知識の總計は所謂トラジションの力によりて定まる事大なるは論ずるまでもなし。然れども其トラジション其者は決して人事を超越し吾人と隔絕して存在するものに非らずして個人個人が長年月の間の活動の蓄積したるものに過ぎず。見るべし人文の發達なるものは多少地勢及人種等に依ることなしとせざるも其大勢は人間の精神的努力に依りて定るものなる事を。余は爰にオーダン氏の調査に依り寧ろ間接的に個人の勉勵と其奮鬪とが社會の幸福と其發展に最も必要なるを暗示せり。他日更に直接に、如何に此社會的條件が人文發達上有力なる原因なるかを說かんとす。

Si nous laissons de côté les causes indirectes...imaginées par les philosophes, il ne nous reste plus comme agents immédiats du développement historique que les hommes eux-mêmes.—Alfred Odin.